

「大学改革・学位研究」執筆要領

令和4年2月21日
研究成果刊行物編集委員会決定

第1 原稿については、和文の場合1行40文字、1ページ38行程度、英文の場合1ページ500語程度とする。

第2 提出する本文のファイル形式は、原則としてMicrosoft Word、一太郎、テキストファイルのいずれかとする。

第3 総ページ数は20ページ程度を上限とする。ただし、下限は設けない。

第4 原稿の構成は次に掲げるとおりとする。

一 投稿原稿には表紙をつける。表紙には、表題、著者名、所属名を和文・英文で併記する。また、原稿区分（「論文」、「研究ノート・資料」）を明記する。

二 本文には、表題、要旨、キーワード（5語程度）本文、参考文献、図及び表を含む。

なお、要旨は和文英文の両方を併記し、和文は400字程度、英文は120語程度とする。また、査読を行う際には、著者名は伏せて行うので、本文の表題の下には、著者名は付さない。

三 委員会より依頼する「招待論文」については、原稿区分は記載しないでよいが、その他の事項は、一般の投稿に準ずるものとする。

第5 文章は、原則として、日本語又は英語とし、日本語は現代仮名遣いを用いる。

第6 「大学改革・学位研究」は、多くの領域にわたる学際的な学術誌であるので、専門を異にする読者にもわかるように配慮すること。なお、その点について、委員会から注記などの付加を要請することがある。

第7 本文の章立ては、原則として、「1. ～」「2. ～」とし、その章に含まれる節立ては、「1. 1～」 「1. 2～」 などとする。

第8 図及び表には、図1、表1などの通し番号を付すと共に、必ず表題を付ける。なお、図については図の下に表題を付し、表については表の上に表題を付す。

第9 図、表及び写真等は文中に組み込むか、あるいは、右側余白などに通し番号などを用いて、挿入位置を明確に指示した上で、別に添付してもよい。

第10 （削除）

第11 文献は、本文中では（著者名、発刊年）などの形で読者に分かりやすいように示し、本文の最後に文献リストをまとめて示す。

第12 参考文献の記述形式は、原則的には以下のようにする。ただし、著者が適切と考える場合には、別の記述形式を用いてもよい。

《学術誌等の文献記載例》

1) 川口昭彦(2003)「東京大学における学士前期課程教育の授業評価」『大学評価』, 2, 3-20.

2) Martin, B. R. & J. Irvine (1983) "Assessing basic research". *Research Policy*, 12, 61-90.

- 3) ウルリッヒ・タイヒラー (2003) 「ヨーロッパにおける学位の相互承認と単位互換—経験と課題—」 (吉川裕美子訳) 『学位研究』, 17, 25-50.

《著書等の文献記載例》

- 4) 舘昭(1997) 『大学改革——日本とアメリカ』 玉川大学出版会

- 5) Birnbaum R. (2001) *Management Fads in Higher Education*. Jossey-Bass

第13 注は、原則としてその注をつける本文の箇所と同一の頁の下部に記述する。ただし、本文の最後にまとめて記述してもよい。

第14 著者による校正は、再校までとする。